

文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
「クリエイター等育成プログラム（メディアアート分野）」

# WAN

## Art & Tech Creators Global Network

令和6年度クリエイター等育成プログラム（メディアアート分野）  
第一期クリエイター 募集要項

### 1. プログラム概要

CG-ARTS（公益財団法人画像情報教育振興協会）では、日本芸術文化振興会からの委託事業として「文化芸術活動基盤強化基金クリエイター等育成プログラム（委託型）」のメディアアート分野における育成プログラムを実施します。

本プログラムでは、国内の有望な若手メディアアートクリエイター（アーティスト、キュレーター等）から、海外のアートマーケットやアートフェスティバル、企業や研究機関等とのコラボレーション等、海外展開へチャレンジする意欲の高い方を募ります。

審査を経て採択されたクリエイターは、海外での滞在（今回の募集はニューヨーク）、展示、発表、現地でのネットワーキングの機会等、本プログラムに参加することで、今後の海外展開に必要とされる知識やスキル、経験を得ることができます。この取り組みにより、グローバルに活躍できる次世代のクリエイターを育成し、本分野の国際的プレゼンスを向上することを目指します。

### 2. WAN: Art & Tech Creators Global Network とは

「WAN」とは Wide Area Network という意味のネットワーク用語ですが、このプログラムでは世界（World）にむけてメディアアート分野のアーティスト（Artist）が今後の海外展開につながる（Network）を構築することを目指し、WAN という名称をつけました。

メディアアート分野はアートとテクノロジーを用いた多種多様なクリエイターによって成り立っています。本プログラムを通じて、国際的なネットワークを構築し、世界で活躍する多様なメディアアート分野のクリエイターを育成、創出します。

## WAN のミッションとビジョン

### ミッション

メディアアート分野で、グローバルに活躍できる日本人メディアアートクリエイター（アーティスト、キュレーター等）を戦略的に支援し、国際的なプレゼンスを強化する。

### ビジョン

- ・グローバルに活躍できるメディアアートクリエイターを輩出する。
- ・海外展開へ向けてのネットワークを構築する。
- ・海外の美術館やギャラリー等での作品発表や収蔵、芸術祭やシンポジウム等への参加を促進する。
- ・海外のキュレーターや研究者、企業とのコラボレーションを行う。
- ・海外と日本の架け橋となるキュレーターを輩出し、国際的ネットワークを構築する。

## 3. 育成プログラムの概要

- ・国内外の有識者によって構成されたアドバイザー陣と事務局による育成対象期間中の総合的なサポート（渡航前の準備、渡航後のアフターケアを含む）。
- ・国内外専門家によるレクチャーやワークショップの受講。
- ・海外研修先（ニューヨーク）での発表機会の提供（作品や創作形態により相談の上で決定）。そのためのリサーチやフィールドワークのサポート。
- ・アーティスト自身では行えない対外的な広報になりうる情報の発信。

### 育成対象者に求める内容

- ・活動レポートの執筆
- ・成果発表会への参加
- ・広報・情報発信への協力
- ・必要な打ち合わせへの参加（基本的にはオンライン会議を想定。内容により対面での参加を依頼する可能性あり）

### 育成対象期間と研修先

育成対象期間：2025年2月（対象者決定後）から2026年3月末までを予定

現地研修期間：2025年6月～2026年1月の間を予定（うち1～2カ月程度）

研修先： ニューヨーク（米国）

※ ニューヨーク（米国）で行う1～2カ月程度（予定）の現地研修については、育成対象者にヒアリングを行い、事務局・アドバイザーとの相談を経て、期間等を決定します。

※ 育成期間中は、常時の対応を求めるものではなく、他の業務との関連を考慮し、事務局・アドバイザーと業務範囲やスケジュールを調整します。

## 予定される提携機関（現時点での予定）

### NEW INC

アート、デザイン、テクノロジーの交差点で活動する人々のためのインキュベーター機関。NEW MUSEUM が主導し、新しいアートとアイデアへの継続的なコミットメントを促進するための非営利プラットフォームとして機能しています。

<https://www.newinc.org/>

## 事務局（CG-ARTS）が負担する経費

- ・研修先への渡航・滞在にかかる旅費および日当
- ・研修先でのプログラム実施（発表活動等）にあたって必要となる経費

## 4. 応募者に必要となる条件

### 応募者の条件

以下の4つの条件を全て満たす者が対象となります。

1. 海外展開へチャレンジする意欲の高いメディアアートクリエイター（アーティスト、キュレーター等）
2. 国内外の美術館、芸術祭、シンポジウム、学会、展示会等での発表経験があること。
3. 本プログラムを円滑に遂行することができるだけの英語力を有すること。
4. 日本国籍又は日本国永住権を有すること。

### 対象とするメディアアートクリエイターの例

- ・先端的なテクノロジーを用いて表現の可能性を拡張するメディアアーティスト
- ・映像や音響を組み合わせた斬新な表現やパフォーマンスなどのクリエイター
- ・クリエイティブ・コーダー、アート&テック領域のプラットフォームやサービスのクリエイター
- ・テクノロジーと社会の関係について、批評的視点を提供するアーティストやキュレーター
- ・人工知能（AI）、バイオアート、スペキュラティブデザイン等の表現者
- ・AR、VR等のXR分野やゲーミングアートのクリエイター・プロデューサー

※以下の条件を満たす応募者は審査において加点されます（満たさない場合でも応募可能です）。

- ・国内外のメディアアート分野コンテストでの受賞歴、選出歴
- ・海外での作品発表実績やキュレーション、研究活動発表実績
- ・海外のレジデンスプログラム等への参加経験
- ・文化庁事業での採択実績（メディア芸術クリエイター育成支援事業・新進芸術家の海外研修）
- ・論文などの学会発表実績

## 採択者の活動歴の目安

活動歴 5 年～20 年程度

## 採択人数

育成対象者： 4 名程度

## 5. 募集期間・選考の流れ

### 募集期間

2024 年 11 月 7 日 (木) ～11 月 28 日 (木) 17 時 (日本時間) まで

※2025 年度 (第二期)、2026 年度 (第三期) にも募集が行われる予定です。

### 選考スケジュール (予定)

書類選考： 2024 年 12 月初旬～中旬

書類選考結果通知： 2024 年 12 月中旬

選考面談： 2024 年 12 月下旬～2025 年 1 月下旬

選考結果通知： 2025 年 2 月上旬

### 選考の流れ

1. 国内外の有識者によるオンライン書類審査を経て一次審査通過者を選出。
2. 12 月 (予定) に二次審査としてオンライン面談 (基本的に英語で実施) および選考会議を経て、育成対象者を 1 月中に決定。

## 6. 応募方法

Google Drive、Box、Dropbox 等のファイル共有サービス、もしくはご自身のウェブサイト等に下記の提出資料をアップロードした上で、エントリーフォームから応募してください。

### STEP 1) ポートフォリオ資料 (PDF) のアップロード

「ポートフォリオ資料」を日／英それぞれで作成し、Google Drive、Box、Dropbox 等のファイル共有サービス、もしくはご自身のウェブサイト等にアップロードし、ダウンロード可能な URL を取得してください。

#### 【注意点】

- ・形式・枚数自由。
- ・日／英それぞれ 1 ファイルあたり 10MB 以内にまとめること。
- ・これまでに発表した作品や展覧会の概要、コンセプト等を過不足なくまとめてください。
- ・ポートフォリオ資料はすべて PDF 形式で提出すること。

### STEP 2) エントリーフォームへの入力

以下のエントリーフォームに応募者基本情報（氏名、作家名、年齢、居住地、連絡先等）および必要事項を日／英 それぞれで入力すること。

#### 【必要事項】

日本語（400 字以内）／英語（200 words 以内）でそれぞれ入力してください。

1. 自身の活動の海外展開に関してどのようなビジョンがありますか。
2. この育成プログラムで達成したいことは何ですか？
3. これまでに発表したことのある代表的な展覧会等。
4. 海外研修先で、ネットワーキングを目的として訪問したい施設や人はいますか。
5. 研修できない期間があれば明記してください。

また、自身の英語レベルについてフォーム内にて、自己申告で選択してください。

## 【エントリーフォーム】

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc68N2GD-LyTrfGcZ8I2L9CWriZl5HQaLP3eRnQFclNnDh8bw/viewform>

## 7. アドバイザー

イエスル・ソン (アーティスト、ニューヨーク大学 ITP/IMA Assistant Arts Professor)



韓国出身でニューヨークを拠点に活動するアーティスト。テクノロジーやインタラクション、参加型の表現を活用し、視覚以外の感覚を通じた創造的な可能性を探る作品を制作し、想像力豊かで包摂的な世界観を提案する。彼女の作品は、私たちの感じ方や思考、交流のあり方に問いを投げかけ、公共空間や非伝統的な展示場所を積極的に活用することで、芸術へのアクセスに新たな視点を与えている。代表作である『インビジブル・スカルプチャー』(2018-2021)は、音や香り、熱、空気、思考といった非視覚的要素で構成された体験型彫刻シリーズで、国際的に展示され、著書「Invisible and Existent」として2021年に出版された。このシリーズの一部作品はミドルベリー大学美術館に収蔵されている。<https://yeseul.com>

エキソニモ (アーティスト・デュオ)



千房けん輔と赤岩やえによるニューヨークを拠点とするアーティスト・デュオ。1996年にインターネット上で活動開始。以降、ネットワーク時代の人間の身体性や感情を、デジタル/アナログメディアを掛け合わせ、批評的かつユーモラスな切り口で表現している。アルス・エレクトロニカでのゴールデン・ニカ(2006)、芸術選奨文部科学大臣新人賞(2021)等を受賞。メディアアート、コンテンポラリーアート双方からの評価を得ている。ホイットニー美術館でのオンライン展示(2019)、東京都写真美術館での個展(2020)をはじめ、国際展にも数多く参加。また、2012年に立ち上げたイベント「インターネットヤミ市」は、世界30都市以上に広がり、The New York Times, The Guardian, Libération等の海外主要メディアでもとりあげられている。<https://exonemo.com>

サロメ・アセガ (NEW INC ディレクター)



アーティスト、NEW INC ディレクター。シアスター・ゲイツ、リビルド財団、プラダが共同で開発したドーチェスター・インダストリーズ実験デザインラボの第一期生。NEW INC がインキュベートするブルックリンの10代のためのデジタル・アート・ラボ「POWRPLNT」の共同設立者。Eyebeam、The Laundromat Project、Recessのレジデンスやフェロウシップに参加。ムンク美術館、第11回上海ビエンナーレ、MoMA、カーネギー・ライブラリー、オーガスト・ウィルソンセンター、ノックダウン・センターなどで展覧会を開催。School for Poetic Computation、Jerome Foundation、National Performance Centerの理事を務めている。

戸村朝子 (文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業アドバイザー/ソニーグループ株式会社 Headquarters 技術戦略部 コンテンツ技術&アライアンスグループ ゼネラルマネージャー)



表面科学とメディアアートを学び、株式会社資生堂宣伝部を経て、2001年よりソニー株式会社。株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント、株式会社アニプレックスで、映画やアニメ作品のデジタル事業の新規開拓。その後、本社CSR部にて、国際NGO等と技術を活用した社会課題解決に取り組む。16年より現在まで、アーティストとエンジニアによる先端コンテンツ開発、技術コミュニケーション、サステナビリティ技術推進等を担当。アルスエレクトロニカ2021「The Power of the Unseen」Garden TOKYO企画ディレクター、欧州委員会2022 S+T+ARTS Prize Jury、SIGGRAPH Asia 2024 Art Gallery 審査員など。21年より東京大学大学院情報学環客員研究員、24年より東京工科大学客員教授。

※ アドバイザーについては順次追加予定です。

## お問合せ先

クリエイター育成プログラム（メディアアート）事務局 [CG-ARTS 内]

Mail : [kikin-ma@cgarts.or.jp](mailto:kikin-ma@cgarts.or.jp)

〒104-0045 東京都中央区築地 1-12-22 コンワビル 7F

TEL : 03-3535-3501

※受付時間：平日（祝祭日は除く）10:00～17:00